

# 日本とタイの高校生がオンラインで交流

埼玉親善大使レポート No.3 2023.12.1

日本語パートナーズ タイ 11期 トラート県/サトリープラサートシン校 関戸成文

埼玉県立和光国際高等学校のご協力を頂いて、日本とタイの高校生のオンライン交流会を行いました。

和光国際高等学校からは6名の生徒に参加いただき、タイ側は派遣校のM5(高校2年生)の女子8名、男子2名の計10名でした。日本語専攻のクラスの生徒です。

3週間の学期間休みになる直前の10月中旬に、生徒へオンライン交流会をやることと生徒が準備することを伝えました。でも、ピンとこないのか、緊張のためなのか、反応がありません。興味ないのか、と不安になりました。

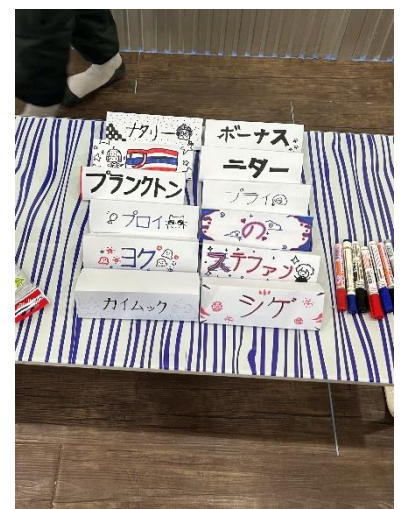
休み明けの11月初旬にもう一度交流会でやることを説明しました。

質問の締め切り直前の授業で質問のまとめをやるのこのことをタイ人の日本語教師から聞き、私もその授業に参加させていただきました。

みんなしっかりと質問を日本語で考えていました。

そして、クイズの作成も同じです。スライドもタブレットやスマホで作り上げていて、私のやれることはわずかな日本語の修正だけでした。

前日には、各自のネームプレートを作りました。私の分も作ってくれました。



交流会当日がやってきました。

若干の緊張はあるようです。でも、オンラインが繋がって、和光国際高等学校の皆さんの様子が映し出されると、手を振り、とてもうれしそうです。

自己紹介からスタートです。和光国際高等学校の生徒一人ひとりが挨拶をするたびに、「かわいい」と言いながら手を振り、興奮が高まっています。



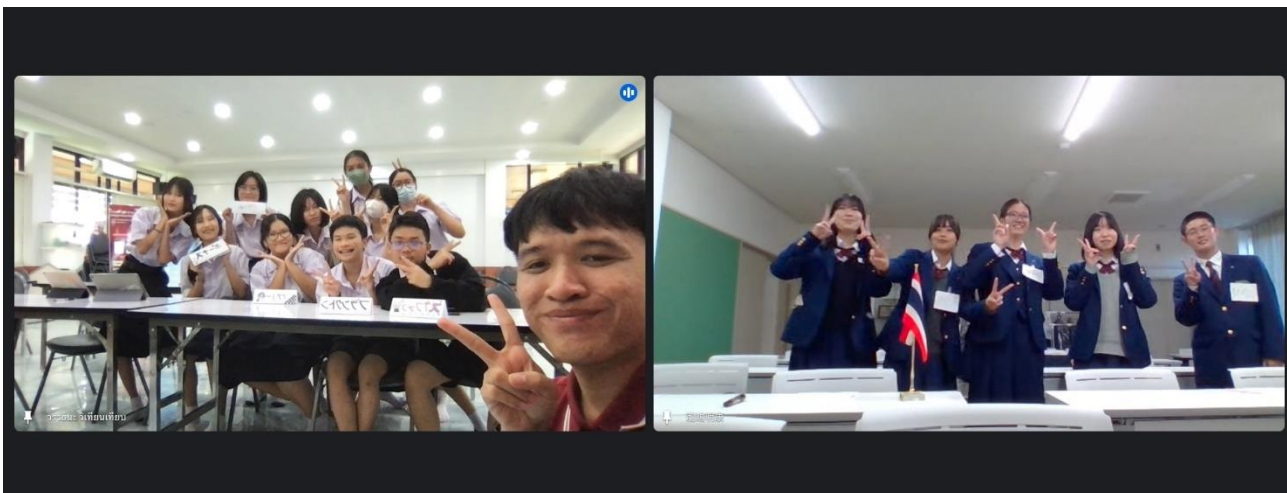
続いて、お互いの学校のこと、地域のことの紹介、お互いの国についてのクイズ、お互いに知りたいことを質問し合いました。自国の勧めたい料理、人気のある歌や芸能人、休みや学校の後に何をやる？などなど、です。



ちょっと早めに終わったため、新たに質問を求めたら、両校から質問が出ました。

タイ側の生徒は、それに一生懸命に日本語で回答し、また、突然の私の振りにも拘わらず質問を日本語で考えて、発表していました。

そして、両校そろって記念撮影です。



閉会後も、Instagramのアカウントの交換をしたり、個々で記念撮影をしたりと楽しんでいました。

当初の反応が今一步だったのは、日本の高校生と交流を持つことを想像できなかったのだと思います。

トラートにいる日本人は、日本語パートナーズの私ただ一人なのですから。



派遣校の生徒にとって、普段は本やインターネットなどで見るだけです。オンラインとはいえ、日本の高校生と交流できたことは、彼らにとってとても貴重な経験でした。

生徒たちの笑顔を見て、オンライン交流会をやってよかった、大成功と感じました。

和光国際高等学校のみなさん、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。